

# 令和6年度(2024年度)

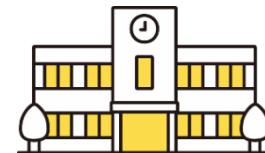
## 幼保小の円滑な接続に係る管理職等研修会

令和6年(2024年)9月27日(金)15:30~16:30

- (1) 開会 幼児教育センター長(義務教育課長)あいさつ
- (2) 「くまもとスタンダード」(改訂版)について
- (3) 実践発表及び質疑・応答  
発表者 益城町立広安小学校 坂崎 慎太郎 教頭
- (4) 諸連絡  
幼児教育シンポジウム(10月25日開催)について
- (5) 閉会



熊本県幼児教育センター  
(熊本県教育庁市町村教育局義務教育課)



# 今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 中間整理(簡略版) ※一部抜粋 R6.8

## 第2章 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育活動の成果と課題等

### 1. 幼児教育の基本に関する事項

#### (1) 身体の諸感覚を通した豊かな体験

・ 幼児期の発達の特性を踏まえ、幼児期こそ、様々な人やものなどに直接関わり、身体の諸感覚を通して感じ取ったり気付いたりする体験や、自分の思いや考えを言葉にして伝え相手の思いや考えを聞く体験、自分から進んで環境に関わり新たな発見等をしたりする体験、人との関係が深まっていく体験等を積み重ねていくことが重要。

・ 家庭や地域において、幼児の発達に必要な直接的・具体的な体験を十分に確保することが困難になってきている中、幼児教育施設において、様々な人やもの、自然や文化等と直接的・具体的に触れて関わり、豊かな体験をする機会を積極的に設けていくことが一層必要。

#### (2) 自発的な活動としての遊び

・ 幼児の自発的な活動としての遊びを通した学びは、客観的・抽象的な認識や思考が発達していくことになる小学校以降の生活や学習の基盤となり、ひいては言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の基礎を培う重要なもの。

・ 一部の幼児教育施設においては、子供の興味・関心ではなく、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズを優先するなど、例えば幼児に知識・技能を早期に獲得させるとを目的とするなど、ややもすると、幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘がある。

・ 国においては、幼児期の発達の特性や幼児期にふさわしい教育の在り方について、幼児教育施設はもとより、保護者や地域等に対する一層の普及啓発に取り組んでいくことが必要。

### 3. 幼児教育と小学校教育との円滑な接続

・ 一部の地域では、幼保小の合同研修や幼保小の接続を意識した教育実践が取り組まれ、幼児教育施設において、小学校の各教科等で積み重ねられてきた指導の専門性等を参考に、幼児の主体的な遊びを支える働きかけが充実されたり、小学校において、入学当初の小学校教諭等の指導方法が変わり、子供の主体的な姿がより見られるようになってきたりしているなどの成果が上がっている。

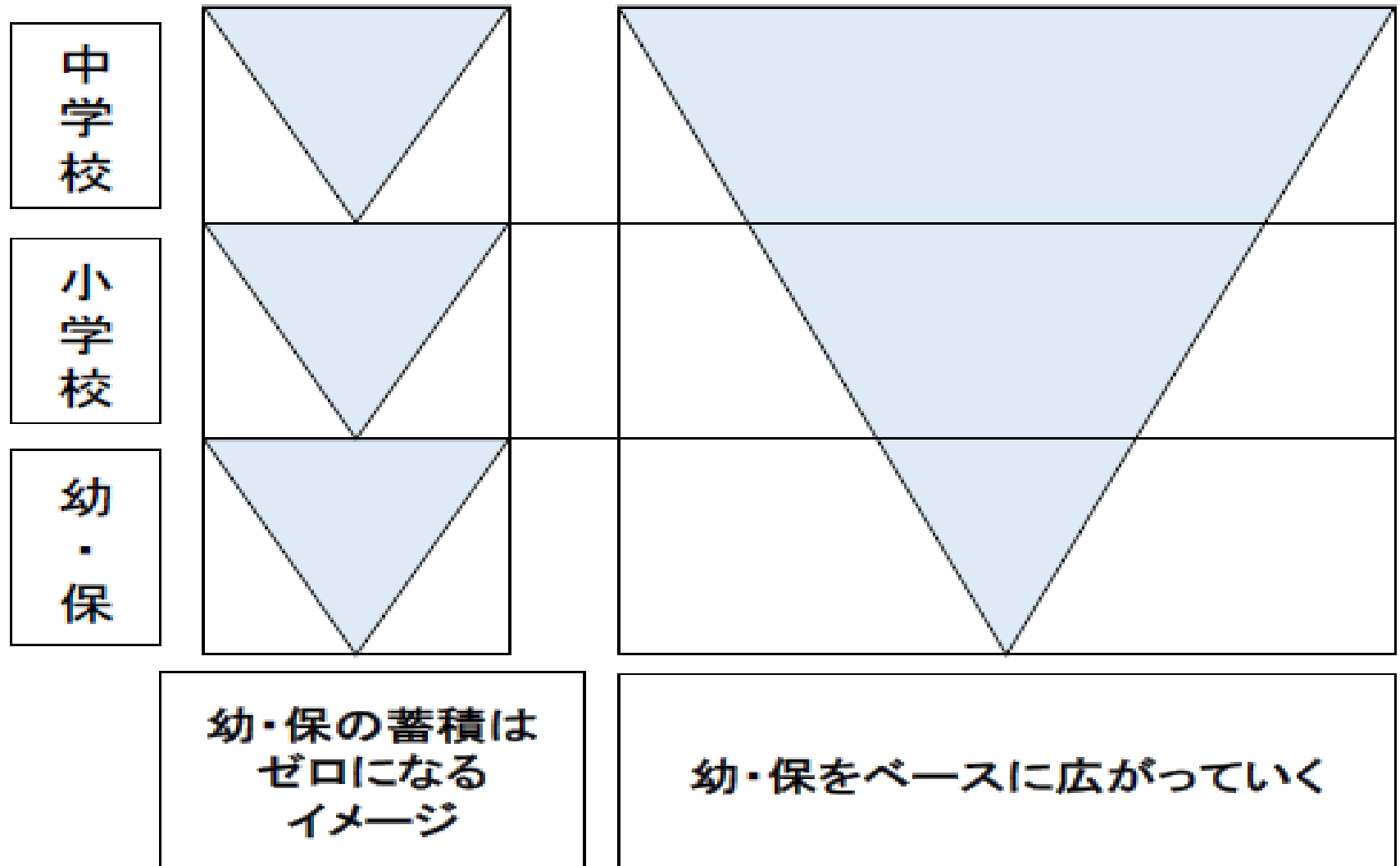
・ 一方、全国的に見ると幼保小の接続に関する取組は未だ不十分であるという課題も生じている。小学校低学年においていじめの認知件数が多く、また、不登校児童の増加率が高いことを踏まえると、いじめ・不登校対策の観点からも、幼保小接続期の教育の充実について検討を行い、対策に取り組むことが重要。

・ 幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るに当たっては、幼児教育施設と小学校の両者が連携の意識をもち、教育実践を見合い、相互の共通理解を図ることが重要である。その上で、幼児教育施設においては、小学校以降の教育を見通しながら、幼児に直接的・具体的な豊かな体験を通して小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力が育成されるようにすること、小学校においては、幼児期には幼児自らが遊びに向かう自発性を大切に「環境を通して行う教育」が行われていることを踏まえ、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、授業や学習の楽しさと充実感を感じながら基礎的な学力を身に付けていくようにすること、特に入学当初は幼児教育との指導方法の連続性・一貫性を確保することが重要。

・ 小学校以降の教育においては、「令和の日本型学校教育」の実現を目指して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげていくことが求められており、こうした小学校以降で進められている教育の方向性は、子供それぞれの興味・関心や一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出す観点から、幼児教育の「環境を通して行う教育」の考え方とつながっていると考えられる。

・ 小学校教育においては、新たなICT環境や先端技術も活用しつつ、「環境を通して行う教育」という幼児教育の基本的な考え方を取り入れた教育実践の研究・普及を行っていくことが考えられる。その際、効果的な教育実践に向けて、幼保小で協働して取り組んでいくことも必要。

# 相互理解により、幼児期の教育を 小学校以降の教育に生かし、学びを広げていく



# 個別最適な学習の原理、 それは幼児教育でいう「環境による教育」

幼児教育では、原則教えないで、**環境を整えます**。あとは子どもを見て、子どもだけでやれることと子どもだけではやれないことを見据えます。そして、子どもだけでできないことに関して、子どもだけでできるような後押しをします。

幼児教育あるいは**特別支援教育**というのは、**環境を整えて、一人一人を丁寧に**見て、その子が本当に必要**なところだけを支える教育**です。要するに、個別最適な学びの原理や目指す姿はそういったところにあると思うのです。

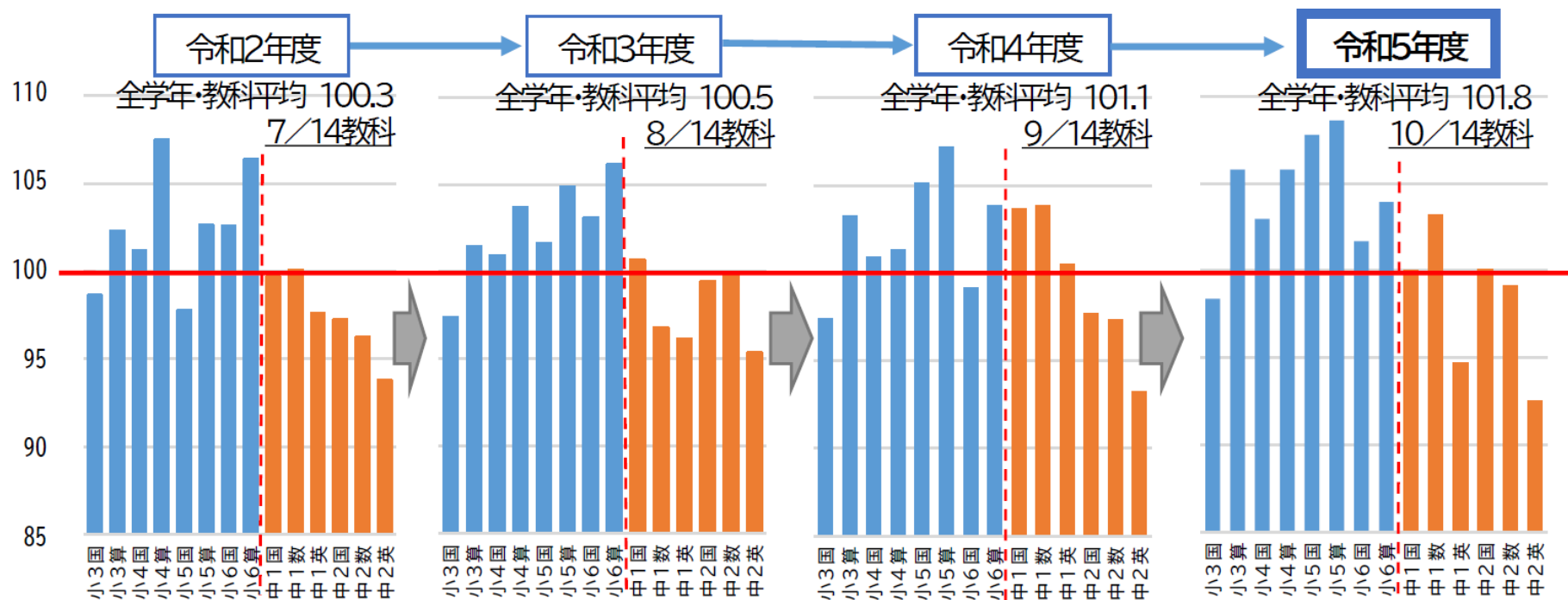
ヒントは  
幼児教育にある！



【奈須正裕先生インタビュー】「有能な学び手」としての子どもを信じる【「個別最適な学び」の核心に迫る～ひとりひとりに向き合う教育のこれから～】五月祭教育フォーラム2023 EDUPEDIA 2023.7.25 <https://edupedia.jp/archives/32162>

# 幼保小の円滑な接続を、解決の糸口に

令和5年度(2023年度)熊本県学力・学習状況調査 結果概要



## 【お願いしたいこと】

幼児期の終わりから小学校入学への「円滑な接続」に向けた「くまもとスタンダード」を活用した取組を地域の園長と連携し、子供同士・職員同士をつなぐ

# 幼児期の終わりから小学校入学への「円滑な接続」に向けた くまもとスタンダード ※ R6.2 改訂

## 幼児期の終わりから小学校入学への「円滑な接続」に向けた くまもとスタンダード R6.2改訂

入学当初の教育においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して学んできた児童を戸惑わせることなく、主体的に自己を発揮しながらかつ学びに向かえるようにすることが大切です。つまり、小学校教育は、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえたものにするのが大切であり、「0からのスタート」ではないことを理解・実践していくことが重要です。  
このたび、接続の時期に必要な取組を「幼児期の終わりから小学校入学への「円滑な接続」に向けた くまもとスタンダード」としてまとめましたので、それぞれの時期に必要な取組を確実に実施するようお願いします。

### 園等と小学校等との取組 具体的な取組のポイント

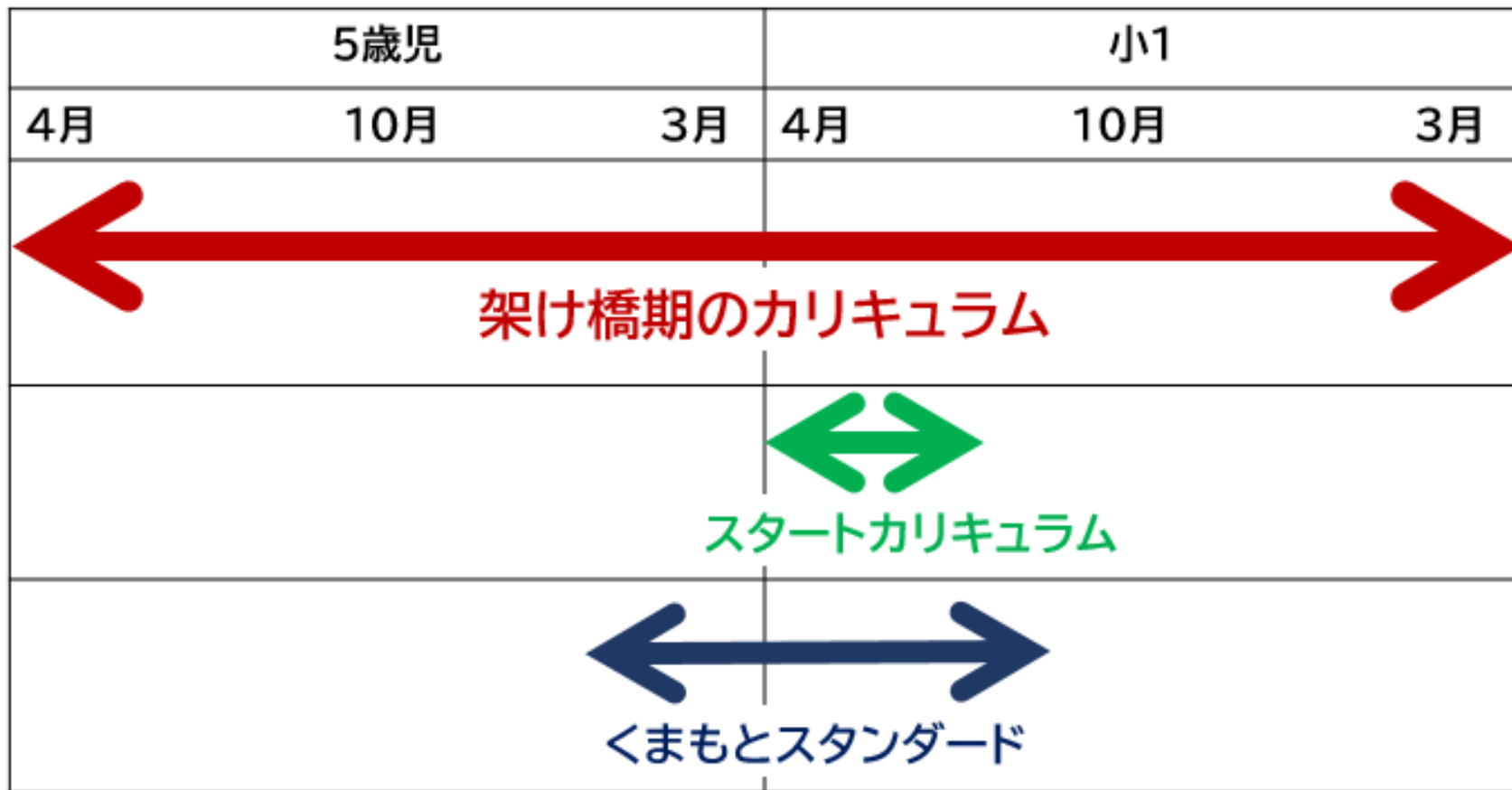
A 1月 ～ 3月	<b>スタートカリキュラムの見直し</b>	<b>スタートカリキュラム見直しのポイント</b>
	年間計画に交流活動や保育・授業の相互参観等を位置付け、計画的に実施し、お互いの教育を理解することが大切です。接続のための連携を図りましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ Cの期間で実施する園等との情報交換会での意見をもとに見直す。</li> <li>□ 総合的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割の設定の観点から、単元配列表や進捗、これまで蓄積してきた資料等をもとに見直す。</li> <li>□ 実際に園等を訪問し保育者と意見交換を行い、幼児期の子どもの姿を理解する。</li> <li>□ 期待する子どもの姿を共有する。</li> </ul>
P 3月上旬 ～ 中旬 ～ 下旬	<b>引継ぎ（園等→小）・連絡会</b>	<b>引継ぎ（園等→小）の主な視点</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の姿を通して「育ってきている力」を共有</li> <li>・保育者の援助の在り方、配慮を必要とする幼児等について引継ぎ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児の姿を通して「育ってきている力」を共有</li> <li>□ 保育者の援助の在り方</li> <li>□ 配慮を必要とする幼児について</li> <li>□ 保護者との連携等について</li> <li>□ 園等から小学校等へのお願い</li> <li>□ 小学校等から園等へのお尋ね</li> </ul>
D 4月上旬 ～ 5月	<b>指導要録等の抄本の受け渡し</b>	<b>小学校内での引継ぎのポイント</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前までに、新1年担任へ、再度引継ぎ事項の確認</li> <li>・指導要録等の抄本の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 新1年担任への確実な引継ぎ</li> <li>◆ 引継ぎ内容を全職員で共有</li> </ul>
C 6月 ～ 9月	<b>スタートカリキュラムの実施</b>	<b>スタートカリキュラム実施のポイント</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後の児童の様子</li> <li>・実施したスタートカリキュラム</li> <li>・園・所等の教育・保育計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 幼児期に育まれた資質・能力、期待する子どもの姿を、小学校等の全職員で共有</li> <li>□ 実施後の気付きを記録し、次年度に反映</li> </ul>
	<b>情報交換会</b>	<b>情報交換会の主な視点</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後の児童の様子</li> <li>・実施したスタートカリキュラム</li> <li>・園・所等の教育・保育計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 授業を参観した園の教職員等と、児童の姿や指導の在り方について気付いたことを情報交換</li> <li>□ スタートカリキュラムを実施しての気付き等について意見交換</li> </ul>

## すべての子どもが生き生きと輝くために

幼児教育施設・小学校・市町村が一体となって、一人一人の子どもの学びと育ちをつなぐためには、まず、子どもに関わる大人が立場の違いを超えて連携・協働することが大切です。ここでは「円滑な接続に向けた年間スケジュール（例）」を載せています。まずは、できることからチャレンジしてみましょう。

### 円滑な接続に向けた年間のスケジュール（例）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
幼児教育施設						<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 相互の保育・授業の参観・意見交換</li> <li>□ 園・学校選定</li> <li>□ 要録等の抄本の受け渡し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 情報交換会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 交流活動</li> </ul>				
小学校等				<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 新1年生に向けたスタートカリキュラムの見直し</li> <li>□ 保護者へスタートカリキュラムについて説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ スタートカリキュラムの実施</li> <li>□ 全職員で共通理解（4月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ スタートカリキュラムの研修・改善</li> <li>□ 園の先生方の意見を取り入れる</li> </ul>						
市町村				<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 引継ぎ・連絡会の実施状況の確認</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 保育・授業参観、交流活動の実施状況の確認</li> </ul>					
県幼児教育推進協議会									<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 架け橋期のカリキュラム作成の支援（域内の園・小学校等をつなぐ会議（幼保小合同研修会）等の実施等）</li> </ul>			
県幼児教育センター									<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 幼児教育アドバイザー（スーパーバイザー）派遣（園内研修・校内研修への派遣、幼保小合同研修会の支援等）</li> </ul>			
文部科学省												
独立行政法人教職員支援機構												
文部科学省・国立教育政策研究所												
熊本県教育委員会												



幼児期の終わりから小学校入学への「円滑な接続」に向けた くまもとスタンダード

- (1) スタートカリキュラムの見直し／実施
- (2) 「育っている力」を引き継ぐ
- (3) 10月～12月の具体的な取組

# (1) スタートカリキュラムの見直し／実施

A

1月  
～  
3月

## スタートカリキュラムの見直し



年間計画に交流活動や保育・授業の相互参観等を位置付け、計画的に実施し、お互いの教育を理解することが大切です。  
接続のための連携を図りましょう。

## スタートカリキュラム見直しのポイント

- **C** の期間で実施する園等との情報交換会での意見をもとに見直す。
- 合科的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割の設定の観点から、単元配列表や週案、これまで蓄積してきた資料等をもとに見直す。
- 実際に園等を訪問し保育者と意見交換を行い、幼児期の子どもを理解する。
- 期待する子どもの姿を共有する。

□ 幼児教育と指導方法の連続性・一貫性を確保

□ 「できること」があるのに、教えようとしてないか？

子供たちがわくわくするカリキュラムになっているか？

園の先生方に…

園では、どうしてですか？

入学した子供たちに…

園では、どうしてたの？



## (2) 「育っている力」を引き継ぐ



### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)を手掛かりに

資質・能力が育まれた5歳児修了時の子供の姿





- |                       |               |               |
|-----------------------|---------------|---------------|
| ○健康な心と体               | ○道徳性・規範意識の芽生え | ○自然との関わり・生命尊重 |
| ○自立心                  | ○社会生活との関わり    | ○言葉による伝え合い    |
| ○協同性                  | ○思考力の芽生え      | ○豊かな感性と表現     |
| ○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |               |               |

# (3) 10月～12月の具体的な取組について



## 円滑な接続に向けた年間のスケジュール（例）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
幼児教育施設												
	<b>情報交換</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 引継ぎ連絡会</li> <li>□ 要録等抄本の受け渡し</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>□ お互いの保育・授業の参観 → 意見交換</li> <li>□ 園・学校通信</li> <li>□ 行事予定表の交換</li> <li>□ 園・校内に「小学校・園コーナー」を設置</li> </ul>			<b>情報交換会</b>			<b>交流活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 事前打合せ</li> <li>□ ねらいの明確化</li> <li>□ 事後の振り返り</li> </ul>		
小学校等	新1年生に向けたスタートカリキュラムの見直し			架け橋期のカリキュラム作成に向けた、域内の園・小学校等をつなぐ会議（幼保小合同研修会）等の実施								
	□ 保護者へスタートカリキュラムについて説明			<b>スタートカリキュラムの実施</b> □ 全職員で共通理解（4月）			<b>スタートカリキュラムの評価・改善</b> □ 園の先生方の意見を取り入れる					

# 幼児教育シンポジウム

小学校からのご参加  
お待ちしております！

【日時】 令和6年(2024年)10月25日(金)13:15~16:30

【会場】 熊本県庁地下大会議室

【内容】

○ 実践報告(市町村実践研究事業報告) 八代市

○ パネルディスカッション「幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために」

コーディネーター:東海大学 准教授 寶來 生志子 氏

パネリスト:益城町立益城幼稚園 荒木 豊美 園長

益城町立広安小学校 紫垣 万里子 教諭

人吉市架け橋プログラム開発会議運営委員

アヴニール・おこばこども園 永田 ミキ 園長

○ 講演「みんなで伴走し、育てよう！

熊本の子どもたち～架け橋期の教育を考える～」

講師 東海大学 准教授 寶來 生志子 氏

